



事業所における自己評価総括表

事業所名	おもちゃ箱なごplus			
保護者評価実施期間	2026年 1月 20日		～	2026年 2月 14日
保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数)	1名
従業者評価実施期間	2026年 1月 20日		～	2026年 2月 14日
従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強みだと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間でのコミュニケーションが円滑	常勤非常勤などの枠を超えて、幅広く意見交換し活動に取り入れている。	良いこと悪いこと、なんでも話し合える雰囲気や大事にし、児童にあった支援が出来るようこれからも連携していきたい。
2	毎回の送迎時、児童の様子を保護者に詳細に伝え、共有することが出来る。	頻繁に連絡はとっているため、話しやすい（相談しやすい）環境は整えている。	送迎先は、自宅、祖父母宅、保護者の職場やお稽古教室等、保護者のニーズになるべく応えられる体制を作っている。
3	1人なのでおのずと個別支援になる。	落ち着いた空間で、児童もリラックスして色々なことに挑戦できる。、周りに惑わされない。	内容を濃いものにするべく、スタッフが研修等に参加しペアトレ等もおこなってきたい。

	事業所の弱みだと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会（父母会）の実施	コロナ後、インフルエンザ等の感染症拡大の恐れから、大人数での集まりを懸念した為。	参加の実施等を保護者に事前に投げかけ、個別と集団での実施等、意見を取り入れて保護者会開催を検討する。
2	非常時の対応力	スタッフが適切に行動できるかどうかと、保護者への連絡もスムーズに行えるかどうか。	保護者へ一斉送信できるSNSやアプリの活用検討。
3	児童発達（同年代）の集団活動ができない。	児童発達の児童の利用が少ない。	相談事業所等へ声掛けしていく。年上の児童との関わりは多いので、デメリットだけではない。